



地元ホテルと創る 島内外の溶け合う共感体験 高校生が挑戦する縁の空間づくり

島根県立隠岐高等学校 ジオパーク研究

2年5班 村上拓摩 高宮花音 坂田千代 柳原理乃 河田呼人

目次



- 1 取り組みの概要
- 2 GeoFeel体験
- 3 実践からの気づき
- 4 実施イベント
- 5 今後の展望
- 6 活動からの学び

共感体験でつながる場



突き牛の綱とり目線を体験している様子

私たちが取り組んできたこと



自分事として未来に向けて
関わろうと思えるつながり
をつくるために、
島内外の人々が
結びつく共感体験の場をつくる

GeoFeelを活用し、つながりを生む場をつくる

活動全体図

隠岐プラザホテル



地域課題解決
プロジェクトin隠岐

立ち上げ
仲間づくり

IROIRO

いろいろ、つながり、ひろがる。

パッションの種を
育てたい!

共感
体験

コンテンツの
改良



3年ジオパーク探究
GeoFeel

クラウド
ファンディング

PR・ファンづくり

複雑な状況を
五感を使って体感する



VRで時と
場を選ばない



アナログで
五感を再現



高校生と体験者で
会話が生まれる



同じ体験で
同じ感じ方をする

解説や映像だけではイメージできない状況を
自分で体験し、現実への解像度を上げる。



3年ジオパーク探究での体験会の様子

手づくり演出での没入感とコミュニケーション

【GeoFeel映像】 雨の日のかぶら杉を歩いていると車がすぐそばを通る



体験者目線



映像に合わせて演出をつける様子

どのくらい道路と近いところにあるんだろう？
かぶら杉の周りにはどうなっている？ etc.



演出

霧吹き ▶ 雨

カッター版 ▶ 車が通ったときの風と勢いを表現

共感体験でのポイント

人と会うこと

+

体験を語ること

▶ GeoFeel体験だけでなく、「つながりを生む場」として設計



GeoFeel

会話のきっかけ

共感する

つながり

つながりを生む理論

人と会うこと

関係資本

(Social Capital)

人とのつながりが継続的な関係を生む

体験を語ること

ナラティブ・アイデンティティ

(Narrative Identity)

人は物語を語ることで自己を形成し、他者とつながる

→ 「感じたことを話す」 = 個々の体験を語る行為
共有することで互いの物語が絡み合い、
より深いつながりを生む

※物語...出来事だけではなく、「そこで吹いていた風が
気持ちよくて、ここは心が落ち着く場所だと感じた」
という主観的な体験

イベントでの実践

- ・ IROIRO企画や企業研修の中でGeoFeel体験機会を設ける
- ・ 体験時の様子等をアンケート、聞き取り調査で整理
- ・ 3月に場づくりの工夫を実践



3月9日
Connect VR
~繋がる体験~

参加人数
38人

隠岐プラザホテル一階に新しくオープン!
ワーク＆オープンコラボスペース 隠岐高校「GeoFeel」開発メンバー

IROIRO × 島根県立隠岐高等学校でクラウドファンディング

挑戦中!!

高校生とVRで島の魅力を届け

目標金額 **60** 万円

1 IROIROで隠岐高生による「GeoFeel」を提供したい

2 最新の機器で「島の魅力」をよりリアルに伝えたい

3 旅人と島民が「Geo Feel」で交流する場を盛り上げたい

詳細はこちら



7月20日
オープニングイベント

参加人数
36人

10月20日
パワーアップしたGeo Feel
のお披露目イベント

参加人数
?人

11月6日
企業研修IN隠岐の島町
参加人数

37人

達成金額： ¥ 683,000 (達成率113%)

支援者： 65人 期間： 7月20日～8月31日

場の雰囲気と利用者の声

GeoFeel体験提供時

体験前

- ・ 少し不安そう
→何が始まるの!?
- ・ 体験している人の反応を見て楽しむ
- ・ 次誰がしたいか相談

体験中

- ・ 大きな声や体を動かして反応
霧吹きやわかめの匂い「わーなにこれ!？」
- 【周囲の人】
- ・ 反応が気になって振り向く
「本当にリアルなの？」 「何が起きた？」
- ・ 体験者の周りに集まる
- ・ 笑いをこらえながら撮影する
- ・ 反応や、演出者の必死さを見て楽しむ

体験後

- ・ 笑顔になった
- ・ 体験者同士で会話がはずむ
「どうだった？」 「楽しかった？」
- ・ 他の体験者をみてどんな演出か知って驚く、笑う
- ・ 次の体験者を呼んでくる
「次、やってみたら！」

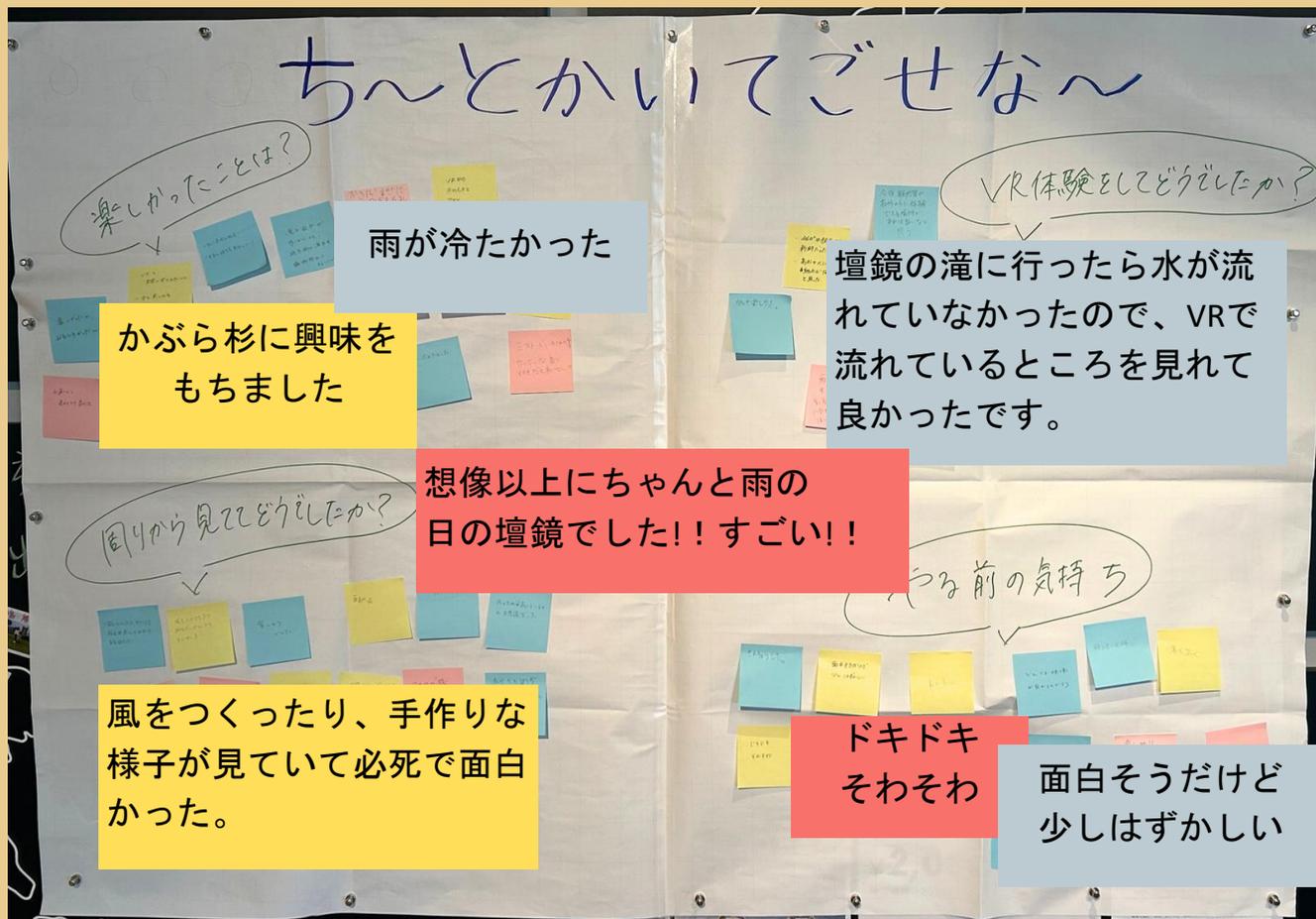
利用者の声

「IROIRO」という名前の通りいろいろなこと(他の客との雑談、コーヒーなどを飲む、Geo Feelなど)ができて楽しかった。

クリエイティブな発想が湧きそう。 雰囲気がいい。

隠岐の方との交流ができそうだった。

共感体験を深める会話を促す



体験して思ったことを共有するためのシート



＋α 「感じたことを話す」ことが次の学びの土台ができる

体験を語ることで、次に聞く情報（専門家の話など）が自分の物語の延長として受け取れるようになる

「この岩の手触りが独特だった」と語った後に、専門家の話を聞くと、「だからこの岩はこういう成り立ちをしているんだ!」と、知識が「自分ごと」になりやすい



IROIRO

いろどり、つながり、ひろがる。

込めた思い × 高校生の場づくり

ただ、仕事や作業をするだけの場所ではなく、旅人と地域、島民と観光をつなぐ、いろいろなひとたちの中に存在するハブのような場所を目指しています。人が行き交い、混じり合い、島の彩を作り届ける体験を生み出し、集った人の「パッションの種」を育てていく空間にしていきたいと思っています。

その最初の仕掛け人が隠岐高生です。



2024年7月

ワーク&オープンラボスペースの誕生

つながりの場のために



運営体制

- ・ 高校生コミュニティマネージャーの在り方
「GeoFeel」での共感体験を利用者に提供する
※現在はイベント時のみ
- ・ 誰でもGeoFeel提供できるかたち

共感を生む会話がしやすい仕掛け

ジオパーク研究を通しての気づき

どんな風に隠岐と関わってほしいか、
共有体験でどうなって欲しいかについて考え続けた。
そんな中で隠岐は、
掘れば掘るほど良さが見えてくる場所であると気づいた。

また、自分たち高校生の熱意が伝わると周りの大人たちが
どんどん力になってくれた。

もっと早くに自分たちの活動の意義や目的などを事細かに考
えられたら、もっと良い活動ができたと思う。



ご清聴ありがとうございました